

平成29年第2回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成29年5月29日

大仙市長 老 松 博 行

平成29年第2回大仙市議会定例会にあたり、諸般の状況について申し上げます。

はじめに、「第16回国際花火シンポジウム」についてであります。

4月24日から29日までの6日間にわたり開催されたシンポジウムには、38の国と地域から449人の参加をいただき、花火に関する歴史や芸術性、安全性などの研究発表やグループ討論が行われ、参加者による活発な議論が交わされたところであります。また、11か国29社の花火関連会社が出展したトレードショーでは、打上点火システムや筒、玉皮貼り機などの製品紹介、商談取引などが行われております。

地元受入組織である市や商工団体などで構成する実行委員会では、シンポジウムに付帯したイベントとして、参加者歓迎パーティーや旧池田氏庭園とまほろば唐松を巡るオプションルツアーなどを実施し、本市観光資源のPRにも努めております。特に、市内酒蔵のご協力による歓迎パーティーやガラディナーでの日本酒提供では、多くの参加者から好評をいただいております。

4月25日、27日、28日及び29日の4日間にわたり雄物川河川敷で開催した「大曲の花火～春の章～」では、「世界の花火 日本の花火」をテーマに、大曲の花火協同組合、内閣総理大臣賞受賞者、日本煙火芸術協会、カナダをはじめとする海外の業者による花火が打ち上げられ、

市内はもとより、国内外の約8万人の皆様に素晴らしい花火の共演を楽しんでいただいたところであります。

シンポジウム開会前日の4月23日に、大曲ヒカリオイベント広場で開催した国際花火シンポジウム開催記念イベント「Welcome to Daisen」については、強風で肌寒い日でありましたが、シンポジウム参加者をはじめ多くの方々に来場いただいております。

シンポジウムの運営にあたっては、市民ボランティアをはじめ、市内の小・中学生、高校生並びに秋田県など関係機関からも多大なご支援をいただいております。期間中の延べ従事者は、市職員も含めて1,200人以上となっております。

国際花火シンポジウム協会の理事や参加者からは、シンポジウムの運営はもとより、市民の皆様のおもてなしに対し賞賛の声を多数いただいております。ご協力いただいた皆様に対し、この場をお借りし、心から感謝申し上げる次第であります。

今回のシンポジウムを通じ、世界各国の花火関係者による活発な議論や交流が図られ、世界の花火、日本の花火の発展に寄与するとともに、「大曲の花火」をはじめ、本市の地域資源を世界中の花火関係者に広く知っていただいたことは、花火のまちを標榜し、花火の持続的発展と地域経済の活性化を目指す本市にとって大変意義の大きい事業でありました。

シンポジウムの効果を一過性のものとせず、世界中から本市を訪れていただく新たな企画を検討し、インバウンド観光の推進に、より一層努めてまいります。

次に、「大仙市アーカイブズ」についてであります。

かねてから開設準備を進めておりました大仙市アーカイブズが、5月3日の憲法記念日に、加藤^{かとう}丈夫^{たけお}国立公文書館長や定兼^{さだかね}学^{まなぶ}全国歴史資料保存利用機関連絡協議会長をはじめ、120人を超えるお客様をお迎えし、東北初の市町村立アーカイブズとして開館することができました。

5月4日、5日の施設見学会には、両日で120人を超える来館者があり、6日からは一般の施設利用サービスを開始しております。開館にあわせた企画展では、アーカイブズの役目、日本と外国との比較、そして、災害や鉄道開通など歴史に残る重要な出来事について、これまであまり知られていなかったことを、役所や地域に残る資料と写真などで紹介しており、来館者の好評を得ております。

今後は、各支所に保存している公文書等の移管を進めるとともに、市民の皆様からの資料の寄贈・寄託にも対応しながら収蔵資料を増やすほか、資料のデジタルデータ化を進め、インターネット上で公開できるよう準備をしてまいります。

さらに、学校授業での資料活用、市内類縁施設と協力した展示等の

開催、最寄り駅からの送迎など、より身近で利用しやすい施設となるよう努めてまいります。

なお、本施設は、歴史資料として重要な公文書やその他の記録を保存し、利用に供するために、公文書館法に規定する公文書館として、ふるさとの記憶と記録を後世に正しく伝える重要な役目を担っていくものがあります。今後とも市民の皆様と関係各位のご理解とご支援をお願いするものであります。

次に、クマによる人身被害についてであります。

報道されておりますとおり、5月9日、協和地域船岡地区の国有林内において、山菜採りの男性がクマと遭遇し重傷を負う事故が発生しております。被害に遭われた方には、心からお見舞い申し上げます。

本市では、平成28年度の市内でのクマの目撃が118件、捕獲が42頭と、前年度を大きく上回ったことや、昨年の5月、6月に鹿角市で4人の犠牲者を出したクマによる人身被害を踏まえ、4月25日から職員が広報車等による啓発活動を行うとともに、5月には、県が作成したリーフレットを市内全戸に配布し、市民に注意喚起を行っているところであります。

今回の事故を受け、事故翌日の10日、県主催のツキノワグマ被害緊急対策会議が和ピアで開催され、県警や秋田森林管理署、協和地域

猟友会、本市など関係機関から27人が出席し、人身被害の状況と今後の対策について協議しております。

今後、市では、関係機関と連携しながら、立て看板の設置や主要林道におけるパトロールの実施など注意喚起を継続し、クマによる被害防止を図ってまいります。

次に、後期高齢者医療保険料等の軽減判定誤りについてであります。

昨年12月、厚生労働省から、電算システムの設定誤りによる後期高齢者医療保険料の軽減判定誤りが全国的に発生している旨が発表されたことを受け、秋田県後期高齢者医療広域連合において調査したところ、本市では保険料の過大徴収が53件、836,500円、過小徴収が4件、51,700円あることが判明いたしました。

また、関連して、後期高齢者医療保険料と同じ基準で軽減判定している国民健康保険税においても、同様の誤りがあり、保険税の過大徴収が18件、527,100円、過小徴収が15件、396,900円あることが判明しております。

これを受け、市では4月下旬から、還付または追加徴収の対象となる被保険者に対し、個別訪問等によりご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、還付の方には速やかに還付を行い、また、追加徴収の方には個々の事情を伺いながら丁寧に説明したうえで、納付いただくこと

を了解いただいております。

今後、このようなミスが起きないように、再発防止に向けた取組を徹底してまいりたいと存じます。市民の皆様にはご迷惑をおかけいたしましたことを、心からお詫び申し上げます。

次に、主な部局ごとに諸般の報告を申し上げます。

はじめに、総務部関係についてであります。

職員採用試験については、これまで「大学卒業程度」としていた受験資格に、新たに「短期大学及び高校卒業程度」の採用枠を追加することとし、新卒者等を対象とした一般事務職員、土木技術職員など計5人程度を採用する予定であります。日程等については、7月1日発行の市広報及び市ホームページでお知らせすることとしております。

なお、「大学卒業程度」の採用試験については、新卒者等を対象とした一般事務職員、土木技術職員及び社会福祉士など計19人程度と、一定の社会経験のある職務等経験者1人程度を採用する予定であり、7月23日に一次試験を実施することとしております。

また、大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験については、上級の部、初級の部ともに7月1日発行の市広報及び広域消防本部のホームページで詳細を公表することとしております。

次に、企画部関係についてであります。

「広報だいせん『だいせん日和』」については、公益社団法人日本広報協会が主催する平成29年全国広報コンクールの広報写真・一枚写真の部において、最高賞である特選及び総務大臣賞を受賞しております。全国コンクールでの受賞は平成26年以来で、これまで広報紙の部と写真の部の二つの部門で計10回の入賞を果たしており、総務大臣賞の受賞も今回で2回目となっております。この受賞を励みに、今後も市民に親しまれる広報紙を目指してまいります。

地域おこし協力隊については、本市として初めてとなる協力隊員1人を本年1月に採用しており、インターネットの移住情報発信サービス「田舎の暮らし方ブログ」を活用し本市の魅力を市内外に発信する活動のほか、「お試し移住体験」における移住希望者への案内業務等、移住・定住促進に関する活動などを行っております。4月からはさらに1人の隊員を採用し、あわせて2人体制となっております。それぞれの隊員が新しい視点で市内各地域の行事などを取材し、情報発信しております。今後は、これらの活動に加え、集落支援員と共同し集落の維持活性化のための支援活動などを行い、地域の活性化と地域力の強化につなげてまいりたいと考えております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

臨時福祉給付金については、3月1日から申請受付を開始しており、支給決定者には4月13日から順次給付しております。5月18日までの申請率は91.3パーセントとなっており、該当すると思われる方で未申請の方には再度申請書を発送するなど、申請の勧奨に努めてまいります。

子ども・若者総合相談センターについては、4月から、大曲地域に相談センター「ふらっと」を開設しております。本市としては2か所目の相談センターとなり、ニート、ひきこもりなど、社会生活を営む上で困難を抱える子ども・若者にとって、相談や支援先の選択肢が広がり、さらに利用しやすくなるものと期待しております。

子育て世帯応援融資利子補給金については、子育て世帯の経済的負担の軽減を図る支援策として平成27年度から実施しておりますが、本年度から融資利用者の実質負担利率を2.0パーセントから0.5パーセントに引き下げております。これにより、これまで以上に利用しやすい制度としておりますので、引き続き制度のPRに努めてまいります。

次に、農林部関係についてであります。

大豆産地化推進事業については、6月上旬からの播種作業に向けて、耕起作業は概ね終了しております。現在、個々の農家から提出された平成29年度営農計画書を取りまとめ中ではありますが、大豆の栽培面積

は、昨年度より96ヘクタール増加し、1,169ヘクタールとなる見通しであり、関係機関と連携して収量及び品質向上への取組を推進してまいります。

J A秋田おぼこが事業主体となって取り組む「ファーマーズマーケット等複合施設」については、施設名称を「しゅしゅえっとまるしゅ」として6月24日に開業を迎えると伺っております。農産物販売の核となる施設の整備により、園芸作物などの生産拡大と販売力の向上が図られ、地域農業の活性化に大きく寄与するものと期待しております。

本格栽培2年目を迎える園芸メガ団地のトマト栽培については、5月4日に定植作業を終え、6月下旬の初出荷に向けて104棟のハウスで本年度の栽培が開始されております。

鮭の採捕事業については、鮭資源の安定的な確保のため、玉川のほか中心市街地を流れる丸子川でも実施することとし、今次定例会に丸子川へのウライ設置に係る予算の補正をお願いしております。特産品の開発や観光面においても、鮭資源を活用した取組を進めてまいりたいと考えております。

次に、経済産業部関係についてであります。

ハローワーク大曲管内の本年3月卒業の高校生の就職状況については、318人が就職し、就職率は99.1パーセントとなっております。

このうち、県内就職者は222人で全体の69.8パーセントを占め、県平均よりも3.8ポイント高い数値となっております。若者の地元定着をより一層促進するため、本年度も経済団体に対して、早期の求人票提出を要請してまいりたいと考えております。

昨年度から実施している「大仙市企業インターンシップ事業」については、本年度、対象大学を県内の1大学から4大学と秋田工業高等専門学校に拡大したところ、昨年度の受入8社を上回る20社から申し出があり、夏休み期間中の8月から9月にかけて実施することとしております。

企業誘致活動については、誘致や規模拡大の案件に対し、積極的に足を運びトップセールスによる交渉を行っておりますが、市町村合并当初は6か所あった企業誘致のための工業団地については、現在、南外地域の西ノ又工業団地と西仙北地域の北野目工業団地の2か所のみと不足している状況であります。このことから、進出を検討している企業の様々な要望に対応するため、新たな工業団地を整備したいと考えており、今次定例会に適地調査に係る予算の補正をお願いしております。

花火産業構想に基づく花火玉の原料炭開発については、国の地方創生推進交付金を活用し、炭の製造に必要な窯等の設備導入を予定しておりましたが、今般、交付金の内示を受けたことから、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

次に、建設部関係についてであります。

道路の維持修繕については、本年度、道路河川課内に道路維持センターを新設し、専従職員が大曲地域を拠点とする中央道路維持作業班と中仙地域を拠点とする東部道路維持作業班を一元管理するよう体制を整備し、道路修繕を迅速かつきめ細やかに実施するよう努めております。

また、住み良さを実感できるまちづくりを目指し、生活に関わる身近な道路を緊急に整備するため、市内各地域の実情にあった方法で柔軟に活用できる道路修繕費として、今次定例会に各地域1千万円ずつ合計8千万円の予算の補正をお願いしております。

道路用地対策については、国土調査事業の効率的な実施と未登記解消事務のスピードアップを図るため、本年度、西仙北庁舎内に用地対策課を新設し、専門的な知識と経験を有する職員6人体制で業務を進めております。

国の雄物川中流部の河川改修事業のうち、協和地域の岩瀬・湯野沢地区については、本年度、用地取得業務に着手すると伺っておりますが、本地区では家屋移転が必要であり、集団移転希望者のための宅地造成を市が実施する必要があります。このことから、本年度、協和庁舎内に道路河川課河川改修対策班を新設したほか、今次定例会に、移転先用地に係る測量設計業務等の予算の補正をお願いしております。

次に、教育委員会関係についてであります。

昨年7月にスタートした「大仙ふるさと博士育成事業」については、大仙ふるさと博士の認定を受けた児童生徒が、第1回定例会での市政報告時から約300人増え、3月末で983人が初級の認定、15人が中級の認定を受けております。

この事業に加え、大仙ふるさと博士の英語版となる「グローバルジュニア・マイスター育成事業」を本年度新たにスタートしております。4月に開催された国際花火シンポジウムにおいて、受付や歓迎イベントへの参加に始まり、昼食給仕、旧池田氏庭園や薪能特別講演の案内、折り紙、書道、呈茶体験等に児童生徒が手伝いとして参加し、外国からの参加者と関わることができたことは、素晴らしいキャリア体験になったことと考えております。

5月31日に開催される全国共通スポーツイベントの「チャレンジデー」については、本市では5回目の参加となり、今回の対戦は、山梨県甲斐市及び鹿児島県霧島市との三つ巴戦であります。スポーツ団体、学校、企業など多方面からの賛同をいただき、市民の参加率向上を目指し、市内全域で約80のイベントを企画しております。

7月15日から17日まで3日間の日程で開催する「第1回全国500歳野球大会」については、北は青森県、南は宮崎県から県外18チームの参加が決定したところであり、秋田県内の14チームを加え、

3 2 チームでのトーナメント戦が展開されます。本市の文化、観光、特産品、おもてなし等、きめ細やかな情報を全国に向けて発信し交流人口の拡大を図るとともに、健康で活力に満ちた長寿社会の形成と、コミュニティの維持が図られるよう事業の発展に努めてまいります。

なお、この大会の開催にあたり、企業版ふるさと納税制度を活用するため地域再生計画の認定を国に申請しておりましたが、3月28日付けで認定されております。現時点で8社から寄附の申し出があり、大会開催を支援していただくこととなっております。

本市では初の開催となる「第二楽章 ^{お が かず お} 男鹿和雄展」については、7月15日から8月20日まで大曲交流センターを会場に開催いたします。男鹿和雄氏は本市太田地域の出身で、スタジオジブリのアニメーション美術監督を務めた日本を代表する挿絵画家であります。特に背景美術を中心に活躍されておりますが、アニメーションの背景美術だけでなく、絵本、エッセイなど幅広いフィールドで活動されております。この絵画展は、平和の尊さを後世へ伝えていく重要なメッセージを持つものであり、折り鶴などを通じ平和を願う男鹿和雄氏によるワークショップや、スタジオジブリの協力により男鹿氏に関する映像の上映会等も実施することとしております。

最後に、平成28年度の一般会計、特別会計及び企業会計の決算概況

について申し上げます。

一般会計については、翌年度に繰り越しする財源を除いた実質収支が、約10億円の黒字決算となる見込みであります。

これは、歳入において、様々な財政需要に対する本市の取組が評価され特別交付税に反映されたほか、歳出全体における経常経費の節減に努めたことなどによるものであります。

国民健康保険事業特別会計をはじめとする特別会計については、全てにおいて実質収支がゼロまたは黒字となっており、企業会計については、水道事業会計が収益的収支において1億6千万円の純利益があり、病院事業会計では収益的収支が4千万円の黒字決算となっております。

以上、諸般の状況をご報告申し上げましたが、これまで申し上げた以外のものについては、別添のとおりご報告させていただきます。

今後とも市民の皆様並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。市政報告とさせていただきます。

別添

平成29年第2回大仙市議会定例会
市政報告

市長報告以外の諸般の報告

平成29年5月29日

大 仙 市

目 次

1	神奈川県座間市との災害対策連絡会議について	2
2	雄物川総合水防演習について	2
3	消費者講演会について	2
4	「ねんりんピック秋田 2017」について	2
5	放課後児童クラブについて	2
6	水稲の直播栽培導入推進事業について	3
7	「花びまつり」について	3
8	クルーズ船乗客による花火鑑賞ツアーについて	3
9	「座間市大風まつり」について	3
10	市単独の道路維持修繕及び新設改良工事について	3
11	除雪機械の購入について	4
12	住宅リフォーム支援事業について	4
13	建設部に係る国、県関係事業について	4
14	上水道事業について	5
15	「余目公園観桜会・余目さくら花火観賞会」について	5
16	神岡地域夜桜ライトアップについて	5
17	西仙北地域桜ライトアップについて	5
18	「なかせん桜まつり」について	5
19	「第8回協和さくら祭り」について	5
20	「第5回南外おらほの桜まつり」について	6
21	「なんがい青空市」について	6
22	「払田真山公園観桜会」について	6
23	おおたコミュニティプラザについて	6
24	「第4回太田黄桜まつり」について	6
25	情報モラルいじめ対策事業について	7
26	こころのプロジェクト「夢の教室」事業について	7
27	だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業について	7
28	小・中学校の部活動について	7
29	第3次生涯学習推進計画について	7
30	出前民謡「ふるさと民謡めぐり」について	7
31	総合市民会館事業について	7
32	旧池田氏庭園について	8
33	歴史まちづくり事業について	8

【総務部】

1 神奈川県座間市との災害対策連絡会議について

座間市との災害時相互応援協定に基づき、5月23日、24日に座間市で開催。両市において1月23日に実施した「いっせい防災行動訓練」の実施状況や今後の計画、災害時避難行動要支援者情報の取扱いなどについて意見交換を行い、災害時の協力体制を再確認している。

2 雄物川総合水防演習について

国土交通省、秋田県及び雄物川流域8市町村の主催により、5月28日に秋田市雄物川河川敷で開催。本市から80人の水防団員が参加し、水防工法を披露している。

【市民部】

3 消費者講演会について

5月19日に大曲交流センターで開催し、市民約100人が参加。公益財団法人塩事業センター職員による「意外と知らない 塩のおはなし」と題した講演や、市消費生活推進員による還付金詐欺への注意を呼びかける寸劇を行っている。

【健康福祉部】

4 「ねんりんピック秋田 2017」について

第30回全国健康福祉祭あきた大会「ねんりんピック秋田 2017」（9月9日から4日間の日程で開催）の大仙市実行委員会第2回総会を、5月9日に大曲交流センターで開催し、事業計画等について承認いただいている。6月上旬には実施本部を設置し、競技主管団体や関係機関等と連携を図りながら大会運営を進めていく。

5 放課後児童クラブについて

4月から新たに、中仙、協和及び太田地域の3か所に増設してスタートし、市内全域の29クラブで、937人の児童を受け入れている。

【農林部】

6 水稲の直播栽培導入推進事業について

本年度設置した仙北地域堀見内地区の実証ほ場で、5月11日に農研機構東北農業研究センターの全面的協力体制のもと、直播栽培取組農家や仙北地域認定農業者協議会会員等73人が参加し、現地検討会を開催。無コーティング種子の代かき同時播種作業が実演され、活発な意見交換が行われている。

【経済産業部】

7 「花びまつり」について

第16回国際花火シンポジウム開催を記念し、本市、仙北市、美郷町、大曲商工会議所及び東北電力大曲営業所の共催による「花びまつり～大仙・仙北・美郷の観光と物産展～」を、4月4日から9日までの6日間にわたり仙台市で開催。市観光物産協会とも連携し、本市のPRを展開している。

8 クルーズ船乗客による花火鑑賞ツアーについて

4月27日、秋田港へ寄港したクルーズ船に市職員が乗り込み、「大曲の花火」の見所などを紹介し、乗客による「大曲の花火～春の章～」の鑑賞ツアーが行われた。今後、海外の大型客船が相次いで秋田県に寄港することから、関係団体と協力し、積極的にインバウンド誘客を図っていく。

9 「座間市大風まつり」について

友好交流都市である座間市の大風まつりが5月4日、5日に開催され、本市からは、佐藤副議長、久米副市長のほか物産中仙株式会社の社員など8人が参加し、特産品の販売や観光PRを行っている。

【建設部】

10 市単独の道路維持修繕及び新設改良工事について

市全体で41か所の工事のうち、8か所はすでに契約済みであり、残りの工事についても早期発注に努める。

11 除雪機械の購入について

第1回臨時会で議決いただいた大曲及び仙北地域に1台ずつ配備する1.3m級小形ロータリ除雪車の購入は、4月20日に本契約を締結している。

12 住宅リフォーム支援事業について

本年度の申請件数は、5月22日時点で134件であり、昨年度の同時期と同程度。市民の関心は依然として高いものとなっていることから、本年度は、来年3月20日までに実績報告書を提出いただけるものについては、全て申請を受け付けることとしている。

なお、昨年度の実績は、申込件数375件、補助金額6,077万円、対象工事費9億4,864万円となっている。

13 建設部に係る国、県関係事業について

・雄物川中流部河川改修事業について

本年度、本市分として約18億4,000万円の予算で事業実施の予定と伺っている。主な事業内容は、協和地域の中村・芦沢地区、西仙北地域の強首及び寺館大巻地区の築堤等の改修工事実施のほか、協和地域の岩瀬・湯野沢地区の用地取得に関する業務の着手となっている。

・道路事業について

協和地域の国道46号荒川地区の線形改良事業として、本年度、2億7,000万円が予算措置され、昨年度に引き続き、掘削及び盛土工事を実施すると伺っている。

・県事業について

南外地域の主要地方道神岡南外東由利線の下袋工区で引き続きバイパス工事を実施、西仙北地域の主要地方道本荘西仙北角館線の間明田工区及び南外地域の一般県道湯ノ又前田線の下滝工区で改良工事を実施、太田地域の主要地方道角館六郷線の砂留工区で歩道設置工事を実施、中仙地域の国道105号上長野橋及び大曲地域の一般県道川西六郷線藤木上橋で橋梁補修工事を実施する予定と伺っている。

大曲地域の福部内川改修事業は、引き続き築堤工事を実施すると伺っている。

【上下水道部】

14 上水道事業について

富士見町地内 2 件の配水管改良工事について、5 月 25 日に工事契約を終え、8 月 21 日完成予定である。

【支所等】

15 「余目公園観桜会・余目さくら花火観賞会」について

4 月 20 日から 5 月 5 日まで、大曲地域内小友地区の余目公園を会場に観桜会が開催されたほか、4 月 22 日に同公園で開催された「余目さくら花火観賞会」では、約 1,000 発の花火の打ち上げや歌謡ショーなどが行われ、1,000 人を超える人々が来場している。

16 神岡地域夜桜ライトアップについて

例年、中川原コミュニティ公園で行っていたものを、今年は神岡中央公園にも投光器やスズラン灯を新規に設置して、4 月 22 日から 5 月 5 日までライトアップを実施している。

17 西仙北地域桜ライトアップについて

本年度から、地域の中心地にある大佐沢公園の桜のライトアップを 4 月 24 日から 30 日まで実施したほか、同公園入口の直売所「大綱の里」において、4 月 26 日から 29 日まで「桜フェア」が開催されている。

18 「なかせん桜まつり」について

4 月 15 日から 5 月 5 日まで、八乙女公園、斉内川河川敷、道の駅なかせん等で開催。八乙女公園の桜（約 2,000 本）と斉内川河川敷の桜（約 100 本）は連休に満開を迎え、道の駅なかせん会場では連休中にドンパン踊り、民謡ショー、ジャンボうさぎの展示などのイベントを実施している。

19 「第 8 回協和さくら祭り」について

4 月 29 日に道の駅「協和」で開催。地元小・中学生の吹奏楽演奏などのステージイベント、イワナのつかみ取り、協和地域や宮崎市の特産品販売及び宮崎の地鶏焼き販売等を実施している。前日 28 日には、隣接する米ヶ森公園で、地域内外から 236 人が参加しグラウンド・

ゴルフ大会を開催している。

20 「第5回南外おらほの桜まつり」について

4月29日に南外ふれあいパークで開催。南外地域の各団体から協力をいただき芸能ステージ発表や出店などが行われ、延べ200人が来場している。また、4月28日から5月7日まで、夜桜のライトアップを実施している。

21 「なんがい青空市」について

本年度新たに、南外支所前駐車場を会場に「なんがい青空市」を開催することとし、5月28日に第1回を開催している。今後は、10月まで毎月第4日曜日を開催日として午前8時から正午まで行う。出店は自由で、出店費用は無料としている。

22 「払田真山公園観桜会」について

本観桜会は、平成28年度に「地域の魅力再発見事業」において十数年ぶりに復活したものであり、本年度からは仙北地域の市民団体が主体となって、4月20日から26日の期間で開催している。4月23日には、芸能発表や桜と高梨神社のライティングショーなどのイベントを実施している。

23 おおたコミュニティプラザについて

廃止した太田保健センターの施設を活用し、4月1日に「おおたコミュニティプラザ」としてオープンしている。各種健診などの保健事業に加えて、休日や夜間も一般に開放し、地域のコミュニティづくりの拠点として活用していただき、施設の有効利用を図る。

24 「第4回太田黄桜まつり」について

5月3日から10日まで大台スキー場を会場に開催。初日をイベントデーとし、バーベキューや動物ふれあい体験、ツリークライミング、ウォーキング、地元農産加工品販売等、好天にも恵まれて多様なイベントで賑わった。来場者は延べ2,000人。

【教育委員会】

25 情報モラルいじめ対策事業について

昨年度に引き続き、全ての小・中学校で、児童生徒及び保護者が情報モラルに係る意識を高める講演会を、5月23日の大曲小学校、東大曲小学校を皮切りにスタートしている。

26 こころのプロジェクト「夢の教室」事業について

スポーツバージョンとして、5月8日に四ツ屋小学校、東大曲小学校（スケート）、9日に藤木小学校、太田南小学校（サッカー）、10日に豊川小学校、協和中学校（陸上競技）、11日に神岡小学校（サッカー）で実施している。

27 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業について

本市の児童生徒が心の支援を大切にした被災地との交流活動の一層の充実を重点に取り組んでおり、その第一陣として5月25日から26日にかけて、太田中学校1年生が岩手県大槌町での交流を行ったほか、5月30日には大曲中学校、大曲小学校及び花館小学校が岩手県大船渡市赤崎地区の方々と現地で交流する予定である。

28 小・中学校の部活動について

5月5日に開催された第44回秋田マーチングフェスティバル秋田大会において、大曲中学校が秋の東北大会の出場権を得ている。

29 第3次生涯学習推進計画について

平成29年度から33年度までの5年間を計画期間として3月に策定しており、計画に記載の各施策に具体的な目標を掲げ、事業を進めている。

30 出前民謡「ふるさと民謡めぐり」について

本年度で11回目を迎えており、5月13日の大曲公演を皮切りに、11月20日の太田公演まで全8地域で順次開催する。

31 総合市民会館事業について

5月14日に小松英典氏の大仙市民賞受賞記念コンサートを、市と「小松英典ファンの集い」との共催により、大曲市民会館で開催している。

32 旧池田氏庭園について

国際花火シンポジウムのオプションツアーのコースの一部として、4月26日に旧池田氏庭園を約140人の外国人が訪れている。

なお、仙北中学校の3年生男女10人が、記念品の英訳したポストカードの配布や緑茶を振る舞うなどのおもてなしを行い、国際交流を体験している。

33 歴史まちづくり事業について

角間川地区における歴史まちづくり事業について、地区のコミュニティ会議を中心に他の団体も一堂に会した研修会が、4月18日に角間川公民館で開催され、3月に策定した整備事業基本計画の概要を地元住民の皆様に説明している。

